

NIIGATA アートリンク

-現代美術三昧-

Niigata Art Link: Absorbed in Contemporary Art

NIIGATA アートリンク誕生

この秋、新潟は現代美術三昧。



えらびのすけ

「NIIGATA アートリンク?どこかで聴いたような」と感じられた方は、おそらく新潟に長い間お住まいの方に違いないでしょう。かつて新潟市笹口に冬はアイスリンク、夏は温水プールとして親しまれていた「新潟アイスリンク」がありました(1973-2003)。その存在を県民に広く知らしめていたのは、何と云ってもそのCMでした。女性の「にがーたあーすりーんくっ!」と歌いあげるその迫力に満ちた声は、一度聴いたら忘れることができないほどのインパクトがありました。

今秋、新潟県立万代島美術館では「リビング展 沸騰する日本の現代アート」、新潟市美術館の「草間彌生 永遠の永遠アノキミダシの永遠」、当館では「GUN 新潟に前衛

があった頃」とそれぞれ現代美術の展覧会を開催します。一般的にはわかりにくいというイメージがある「現代美術」を、より親しみやすくアピールしようと3館で集まり、何かそのための名称を考えようということになりました。いくつかの候補の中で、この「NIIGATA アートリンク」が選ばれたのは、かつて新潟にお住まいの方なら誰でも知ってる、かのCMと語感がそっくりだったからという理由もあるのです。難しく考えないで、とりあえず見に来てくださいね、ということで、今回は3館の共通チラシを作り、スタンプラリーも開催します。

因みにスタンプラリーのスタンプデザインは、今回のために新潟市美術館の松沢寿重学芸員が午前2時に起きて

作ってくれた力作です。どの館でどのスタンプが押せるかはお楽しみ。3館制覇でプレゼントもあります。今年は県内ですでに「大地の芸術祭」が開催され、現在「水と土の芸術祭」も開催中で、現代美術花盛りです。どうぞ3館まとめて愉しんでください。(学芸課長 藤田裕彦)



かんぱすどん



ばれっとちゃん

発売中! 『時代を駆けるデザイン
亀倉雄策賞の作家たち』 税込1,000円

毎年日本のグラフィックデザインの粋を競う亀倉雄策賞。99年の創設以来当館が収集してきた受賞作品はもちろん、歴代亀倉雄策国際賞まで網羅した本がついに完成!デザインファンならずとも必見です。



インタビュー

新潟現代美術家集団

GUNの夜明け

グループGUNの中心的なメンバーである前山忠氏と堀川紀夫氏にお話を伺いました。

GUN結成までの部分についてお伺いします。

GUNとつながる方たちとの出会い、GUNを結成するにあたって影響を受けた評論家や作家などとの出会いなどをお聞かせください。

前山: 年代的で言うとも1965年くらいからですかね。東京の画廊の中で作家や評論家とその場所に居合わせて、話をしているうちに知り合ったり、画廊主から紹介してもらったりとかね。私が(新潟)大学4年の時に個展をやったルナミ画廊では、赤塚行雄氏(美術評論家)とか、石子順造氏(美術評論家)あたりと出会ったわけです。赤塚さんは特にGUNの結成前夜みたいなどころでの関わりが非常に強くて。僕ら同学年の男3人くらいが「よし、やってやろう」という感じだった。

赤塚さんから2回くらい新潟に来てもらった記憶がありますが、田舎から東京を繋ぐひとつの表現の軸と言いますかね、そういうものをもっと広めていこうということで新潟でも東京でも同時に展覧会をGUNでもやっていくことになるのですけども。僕らははじめから田舎で生きていくしかない、長男だったせいもあって。不便であっても東京に出て行こうという

気にはならなかったですね。ここはここでやろうと。それとは別に東京へも打って出てやろうという。両方の視点は欠かせられないという意識ですね。

GUNの一番核になったのは新大の僕らの学年の3人で、卒業と同時に就職で散っちゃったんですよ。それで私はひとつのアミューズをつくって、とにかく発信したんですね。糸魚川にグループがあり、それから…新発田とか、長岡、あちこちに点在して作家がいましたね。GUNとほぼ似たような時期にね、一緒に活動していました。

それで僕の学年3人が核になって、そこから発信して、最初は十数名集まったと思うのですが。それでもってGUNの旗揚げをしたと。その当時では赤塚さんから石子さんに少しシフトしたとかね、石子さんの方が結成にはすごく意欲的だったというか、火を点けたというか。静岡の「幻触」というグループが、僕らより1年前にできているのですね。彼は静岡出身だから。石子さんには「新潟でも骨のあるやつはいないのか!」という感じで僕たちもよく叱咤激励されて。いざ展覧会を企画してね、それにシンポジウムをくっつけてやりましょう!というようなことから、いよいよGUNの構想が

とびまわる学芸員! ①

作品調査で真夏の湘南へ

新潟市出身の洋画家の作品が湘南にあるという話を聞きつけ、作品調査のため7月末湘南へと出かけました。この時期の湘南はまさに“夏”!サーファーや、浮き輪を持った子どもたちが歩いています。さて、作品調査では、作品の

採寸、写真撮影、状態の確認などを行い、ひとつひとつ記録をとっていきます。美術館のコレクションに関わる大切な仕事です。やりとげた充実感からか、帰り道江ノ電から見た海は一際きれいに見えました。(美術学芸員 伊澤朋美)



江ノ電から見た海と江ノ島

前山 忠 *Tadashi Maeyama*

(まよやま ただし / 1944~)

堀川 紀夫 *Michio Horikawa*

(ほりかわ みちお / 1946~)

ともに現在の上越市に生まれ、新潟大学を卒業。
1967年に新潟現代美術集団GUNを結成、その後日本画
美術館、マグニチュードなど、様々なシーンで現在も新たな
視点を提供し続けている。



GUN(雪のイメージを変えるイベント)1970年 ©Mitsutoshi Hanaga

浮上してきて。長岡現代美術館の入口にある茶店に
僕らときたま集まっては相互批評をやって。半年
くらいかけてだんだんとGUNの骨格をつくっていく
わけですよ。旗揚げは実際は12月なんですけども。
そういう流れで県下に点在したのをある種やっと
グループ化したというか、それがGUNになるわけで。

堀川:東京へ行って新しい情報みたいな話を聞いて
関心を持つわけですよ。その話の作品が実物を
長岡に行けば見れるし、それから糸魚川にも行くと、
年に一度、前田常作先生も来たんだし、岡田隆彦
(美術評論家)でしょ、大岡信…。実際それなりに名の
通った方が評価を下したのが見られたということ。
長岡では長岡の尺度で、非常に全国的で、いきなり
東京を越して作品を見られるということがあったの
ですよ^{※1}。彼(前山)が戻ってきて面白いこと
しよう!って僕らに振って。(笑)

前山:ハブニングやろう!とかね。(笑)

堀川:オルグするわけですよ、簡単に言うと。実際に
赤塚さんたちが来たりすると、「何か面白そうだな」と
いう風に思っ。それから世の中の価値が、少しね、
幻想なのだろうけど、地方ということに対してまた

新しい視点で見直してみたい動きがあったのだと思う
のですよね。その後すぐにお釈迦になるのですけども。
長岡がその時に中心地であったという、ちょっとしたね、
誇りみたいな思いがどうしたってあったと思うのです
よね。さもないと、みんな長岡には集まらなかったと
思うのですよね。数年間の時代の夢であるし、自分たち
の夢でもあったみたいな。大光相互銀行の夢でも
あった^{※2}のですけどね(笑)、じきだめになるという、そう
いう歴史の歩みをするわけですね。

※1 長岡現代美術館は1964年国内で初めて「現代美術館」と銘打った美術館として
発足し、世界的視野に立った「長岡現代美術館賞展」を開催、公開審査等の
画期的なシステムで知られた。

※2 長岡現代美術館の館長・駒形十吉は、地元の大光相互銀行を経営し、駒形の美
術品コレクションは「大光コレクション」と呼ばれた。

インタビュー: 万代島美術館主任学芸員 高晟峻
国立国際美術館研究補佐員 宮田有香
文責: 当館学芸課長代理 宮下東子

企画展 **GUN** —新潟に前衛があった頃

2012年11月3日(土・祝)~2013年1月14日(月・祝)

とびまわる学芸員! ②

長岡まつりで美術館のPR

毎年大賑わいの長岡まつり。熱気あふれる大手通り
周辺の一画で、じつは学芸員をはじめとする美術館
のスタッフも美術館の広報活動をしていたのです!
(みなさん、遊びに来てくれましたか?) 展覧会の
紹介や、サイコロゲーム、気軽に参加できるワーク

ショップも行いました。ワークショップでは「スライム
づくり」や「でんでん太鼓づくり」が大人気。夏はちょっ
と涼しい美術館。そこを離れて美術館の活動をもっと
多くの人に知ってもらおうべく、真夏の太陽の下、学芸
員はがんばっているのです! (美術学芸員 伊藤朋美)



お子様連れでにぎわった「ちよこっとアート」コーナー
写真は当館の学芸員主任学芸員と佐藤真希子職員

BOOK GUIDE

読む象徴派

ルドンが夢見た不気味な眼球も、ドニが描いた妻の肖像も、美術史の世界では「象徴主義」と呼ばれています。かくも広がりを見せる象徴主義とは、一体何でしょう……?もともと同時代の文学(とくに詩)から影響を受けて生まれた芸術運動ですので、一筋縄にはいきません。

当時の詩の難解さについての笑い話の一つ。ある日、詩人マラルメが自分の作った十四行詩を弟子たちに読んで聞かせたそうです。弟子たちはそれにすっかり感心して、その解釈を口々に試みました。ある者はそこに夕焼け空が歌われていると言い、またある者はそこに荘厳な日の出が詠まれているのだと言いました。するとマラルメは「いや、そんなことはない。これは私の肘かけ椅子の歌だよ」と言ったとか……。愛弟子たちにしてこの有様なのです。私たちがマラルメの詩集をひもといて、全く歯が立たなかったとしても、けっして悲観する

ことはありません。

象徴派を文学で楽しみたいという方には、詩集もいいのですが、ユイスマンズの小説『さかしま』(河出文庫)を読むことをおすすめします。モローの水彩画を世に知らしめたことで有名な書物ですが、主人公が自らの部屋の中に小宇宙を築き上げ、昼夜逆転した耽美的な生活に溺れてゆく様子が淫澤龍彦の名訳で堪能できます。また、象徴派の歴史が知りたいという方は、高階秀爾『世紀末芸術』(ちくま学芸文庫)をどうぞ。社会的風土から神秘的な美学まで、スケールの大きな視野で当時の芸術運動を的確にとらえています。(学芸課長代理 平石昌子)



MUSIC GUIDE

聴く象徴派

今年生誕150年を迎えたクロード・ドビュッシーは、象徴派の詩人マラルメの「牧神の午後」に触発されて出世作《牧神の午後への前奏曲》を作曲するなど、象徴主義と密接なかかわりを持っていました。象徴主義の芸術には箏笛を吹くギリシア・ローマ神話の牧神(パン、ファウヌ)がしばしば登場しますが、同作曲家にはフルート独奏曲《シランクス(パンの笛)》など、牧神に因むものが他にも幾つかあります。

《牧神の午後への前奏曲》が持つ気分——夏の午後の気だるさ——を最もよく表した演奏は、アンゲルプレシュト指揮、フランス国立放送管

(TESTAMENT)ではないでしょうか。個人的にはカンブルラン指揮、南西ドイツ放送響(hänsler, 右図)もおすすめ。「パレエ・リュスの音楽」シリーズの一枚で、遅めのテンポによる細部の彫琢が息を呑む美しさ。古風な奏法が際立つメンゲルベルク(オーパス蔵)は、鈴木信太郎の文語訳「半獣神の午後」を読みながら聴くのに最適かも知れません。(主任学芸員 長嶋圭哉)



キンビのおすすすめ

今回のキンビのおすすすめは、コレクション展示室の中庭に展示されている、佐藤忠良《若い女》です。佐藤さんは1912年宮城県出身の彫刻家であり、実は絵本『おおきなふ』(福音館書店)の絵本の挿絵を描かれた方でもあります。この彫刻は、宮城県美術館や旭川の公園など全国の美術館や公共空間に設置されています。

野外展示なので、季節により背景は日々変化します。おすすすめは冬!この写真は、雪が降り積もり様々な偶然が重なった時に、ここ近美だけで出会える貴重な《若い女》の姿です。雪国の暗い憂いを感じるとともに、励まされ元気をもらえる気もします。

彫刻は微動だにしません、移ろいゆく自然や鑑賞者の心の変動により、見え方や感じるものは変化し続けます。一つの作品を繰り返し鑑賞するのも通な楽しみ方かもしれません。友の会にご入会されますと、コレクション展の観覧は無料になるので、何度でも御覧いただけます。ぜひ、一人佇んでいる《若い女》に会いに来てあげてくださいね。

(囑託員 堀井つかさ)



お世話になってますシリーズ

その2
メジャー



美術館スタッフにとって「メジャー」は必需品です。それぞれが「myメジャー」を複数持っています。私も美術館に勤務してすぐに2種類購入し、それから毎度お世話になっています。

メジャーが活躍するのは、特に作品展示のとき。美しさやバランスを追求し、作品の高さ・間隔をメジャーで正確に計測しながら作業を進めます。解説やキャプションの位置もミリ単位で計測します。

そこでのベテランスタッフの「メジャーさばき」は見事です。素早く伸縮させたり、垂直移動させたり…。片手に工具を持ち、片手でメジャーを操ります。まるで手品師のような手さばき!メジャーは、美術館の中で、技と一体となって大活躍しています。

(副幹事 佐藤久美子)

編集部からのひとこと

GUN展インタビューいかがでしたでしょうか?どんな展示会になるか、今から楽しみです。現代美術三昧、これを機会に現代美術に親しんでいただければ幸いです。さて、1993年に設立された当館は来年20周年という記念すべき年を迎えます。雪椿通信もそれに併せて20周年特集を組む予定ですので、楽しみに!

(美術学芸員 伊澤朋美)

新潟県立近代美術館だより 雪椿通信 第39号

編集・発行 THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
新潟県立近代美術館

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14
TEL0258-28-4111(代) FAX0258-28-4115
http://www.lalinet.gr.jp/kinbi/ e-mail kinbi@coral.ocn.ne.jp

制作・印刷 株式会社 山田写真製版所 〒950-0064 新潟県新潟市東区松島1-5-14
発行日 2012年9月24日